

次代の旗手・山田和樹

〜欧州各地で活躍する日々〜



早いもので、山田和樹がモナコのモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督兼音楽監督に就任してから、すでに4シーズン目になる。もともと2011年に初めて同管に客演した山田は、2014/15年より首席客演指揮者を務め、2016年秋にジャンルイージ・ジェルメッティの後任として現職に就いた。

芸術監督としては日頃の指揮活動に加えて、シーズンのプログラミング全体を統括し、また団員の採用などさまざまな決定事項の責任をも担う。さらに、同フィルはモンテカルロ歌劇場のピットにも入るので、山田も一部のオペラ・バレエ公演の指揮を行う。

たとえば昨シーズンの山田のモンテカルロ・フィルでの活動(2018年9月〜19年7月)を振り返ってみると、本拠地での演奏会が8演目。さらに海外ツアー、オペラ・バレエ公演をふくめて合計25公演ほど振っている。9月の開幕公演ではヴェンゲーロフを迎え、彼とそのままスイス・ツアーを行い、さらに10月には藤倉大に委嘱したピアノ協奏曲第3番の世界初演(小菅優の独奏。翌1月には山田と読響が日本初演)およびザルツブルク・ツアー。11月にはモンテカルロ歌劇場の〈サムソンとデリラ〉の舞台公演を3回、12月にはバレエ公演の「ニジンスキー・プログラム」を指揮し、この演目は2月にパリのシャンゼリゼ劇場でも彼が指揮した。4月の恒例の「モンテカルロ春の芸術祭」では榎本大進(ヴァイオリン)、

ケラス(チェロ)を迎えての二重協奏曲を含むブラームス・プログラム、夏は宮殿野外演奏会など、王国のオーケストラらしく年中行事も多い。

山田はモンテカルロでの活動について地元の取材に対し、「モナコは数多くの国籍の人々が住む特殊な国なので、人々の関心を惹き付けるのは容易ではありませんが、なるべく多様な関心に対応した企画作りを心がけ、オーケストラにも様々な国の音楽家を起用しています」と語っている。

スイスからバーミンガムへ

一方、山田は、2012年から17年までジュネーブのスイス・ロマン管弦楽団の首席客演指揮者を務めた。2015年に音楽監督ネーメ・ヤルヴィが退任し、2017年にジョナサン・ノットが任命されるまでのシェフ不在の間は、オーケストラの顔としての役割も果たした。2014年夏に同管との日本ツアーを成功させたことも記憶に新しい。ヨーロッパでは、このコンビの活動はPentatoneレーベルからリリースされた「バレエ、劇場、舞踏のための音楽」のシリーズを通して広まった印象がある。その第1弾にあたるフランス舞踏音楽のディスク(ビゼー〈アルルの女〉組曲他)は、英国グラモフォン誌より「山田は知性に富んだ解釈、強い個性、ディテールへの徹底したこだわりを見せ、スイス・ロマン管から機敏かつ洗練された演奏を引き出した」と評された。

スイス・ロマン管を退くのとほぼ同時に、2018/19年のシーズンより山田は英国のバーミンガム市交響楽団の首席客演指揮者に着任、さっそく楽団員の厚い信任を得ている。首席ヴィオラ奏者のアダム・レーマーは、「山田氏は棒さばきとボディ・ランゲージですべてを伝えることができ、彼との音楽作りは大きな喜びです。また、つねに作品に新たな光を当てようと模索する創造性豊かな音楽家です」と語る。2019年1月に指揮したメンデルスゾーンのアラトリオ〈エリヤ〉について、地元のベテラン評論家のクリストファー・モーリーは「彼の指揮は説得力があり、しなやかかつエレガントで、その解釈はドラマティックでありながら内省的でもあった」と賞賛した。

レパートリーの広さを生かして

山田は2009年にブザンソン国際指揮者コンクールに優勝して以来、フランス

後藤菜穂子

首席客演指揮者 コルネリウス・マイスターより 退任のメッセージ

首席客演指揮者のコルネリウス・マイスターは、2020年3月末をもって退任します。読響とは2014年9月に初共演し、2017年4月から3年間、首席客演指揮者を務めました。退任にあたり、マイスターからメッセージをいただきました。



©Marco Borggreve

2014年9月3日に行われた、読響との最初の公演を今でも鮮明に覚えています。コンサートの後半では、R.シュトラウスの不朽の名作〈アルプス交響曲〉を演奏しました。

読響とともに、アルプスの頂上に到達することができました。その後も、マーラー、ブラームス、R.シュトラウスをはじめ、ベートーヴェン、ドヴォルザーク、ムソルグスキー、プロコフィエフ、カサドへと連なる多くの峰々とともに制覇しました。また、リハーサルの合間には日本の豊かな伝統文化を楽しみました。能や茶道に感動し、人々の親切さや、仕事に対する極めてプロフェッショナルな姿勢にも感銘を受けました。

読響の楽団員やスタッフはもちろん、熱心で造詣が深い聴衆のみなさんと同じ時間を共有できたことに感謝の念を持ち、これからも忘れることはありません。来期は、ウィーン楽友協会、ベルリン・フィルハーモニーホール、ニューヨークのメトロポリタン歌劇場の公演でスケジュールが埋まっていますが、近いうちに東京で再びお会いすることを楽しみにしています。

コルネリウス・マイスター

語圏のオーケストラとの縁が深く、フランス音楽のレパートリーも広い（ベルリオーズ、サン＝サーンス、ドビュッシー、ラヴェル、ブーランク、ショーンソン他）。パリ管弦楽団には、コンクール優勝直後にブラッソンの代役を務めてそののびやかで新鮮な音楽作りが評価されて以来、何度か登場しており、2015年には女優のマリオン・コティヤールを迎えてのオネゲルの〈火刑台上のジャンヌ・ダルク〉が話題を呼んだ。そのほか、トゥールーズ・キャピトル管弦楽団にも定期的に客演、また今季はフランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団にも登場し、パリのフィルハーモニーでベルリオーズ・イヤーを記念して、大合唱を伴う壮大な〈テ・デウム〉を指揮した。

ちなみに筆者が山田の演奏をロンドンで初めて聴いたのは、2013年のフィルハーモニア管弦楽団へのデビュー公演で、ロマンたっぷりのリストの〈レ・プレリュード〉とレーピン独奏のブルッフのヴァイオリン協奏曲が印象に残っている。その後もレーピンとはずいぶん共演を重ねているようだ。英国ではバーミンガム市響に加え、BBCウェールズ交響楽団も振っており、また昨年5月にはダブリン（アイルランド）のRTÉ国立交響楽団との〈アルプス交響曲〉が絶賛された。

そのほか、ヨーロッパ圏ではドイツ（ドレスデン国立歌劇場管弦楽団、シュトゥットガルト・SWR響他）、イタリア（RAI国立響）、チェコ（チェコ・フィル）、北欧（ヘルシンキ・フィル、ベルゲン・フィル、イエーテボリ響他）、ロシア（サンクトペテルブルク・フィル）などにも客演、さらに、2014/15年にはアメリカデビュー、2015/16年にはオセアニアでデビューするなど、今海外で活躍している日本人指揮者の中でもっとも多くの国のオーケストラを振っているのではないだろうか。

欧米でのインタビューや動画において、山田はしばしば「オーケストラとの相性 chemistry/telepathy」を強調し、相性がよければ「言葉はいらない」とも語っている。それだけ彼の棒さばきは迷いがなく、きわめて的確かつ機敏で、言葉で説明しなくてもオーケストラのメンバーを引っ張っていく力量が高いからであろう。彼の海外での活躍の幅広さの秘密は、その点とレパートリーの広さにあると思う。今後は、彼がライフワークとしている柴田南雄^{しばたみなお}や三善晃^{みよしあきら}など、20世紀の日本のレパートリーをぜひ海外にも広めてほしいと願っている。

〈ごとう なほこ・音楽ライター／ロンドン在住〉

3月の公演

ドイツの名匠ヴァイグレが振る、ロマン派音楽名曲選



3/5 木 第630回 名曲シリーズ
サントリーホール 19:00

3/7 土 第118回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール 14:00

指揮=セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者)

ヴァイオリン=カロリン・ヴィトマン

ヴェルディ: 歌劇《運命の力》序曲

シューマン: ヴァイオリン協奏曲

ブラームス: 交響曲 第1番

※当初の発表から出演者が一部変更されました。

ヴァイグレが得意のR. シュトラウス《英雄の生涯》をドラマティックに描く



3/12 木 第596回 定期演奏会
サントリーホール 19:00

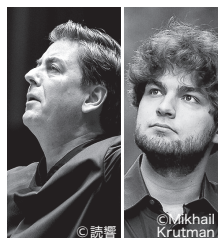
指揮=セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者)

ピアノ=ルーカス・ゲニューシャス

ヒンデミット: 主題と変奏《4つの気質》

R. シュトラウス: 交響詩《英雄の生涯》

ロシアの大器ゲニューシャスが弾く華麗なる《皇帝》



3/14 土 第225回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

3/15 日 第225回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

指揮=セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者)

ピアノ=ルーカス・ゲニューシャス

ベートーヴェン: ピアノ協奏曲 第5番《皇帝》

R. シュトラウス: 交響詩《英雄の生涯》

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休) <https://yomikyo.or.jp/>

3月公演の聴きどころ

3月は、常任指揮者ヴァイグレが登場し、三つのプログラムを指揮する。

3/5《名曲》、3/7《みなとみらい》 ヴァイグレが得意のドイツ音楽を中心としたプログラムを送り出す。メインのブラームス交響曲第1番は、読響に初登場した2016年8月以来、約3年半ぶりに取り上げる。ヴァイグレは「同じ作品を繰り返し演奏するのは良いことだと思っている。取り上げるたびに新たに問い直すことで、新しい発見がある」と語る。ブラームスの人気交響曲からどのような側面を引き出してくれるのか、期待が高まる。シューマンのヴァイオリン協奏曲では、ベルリン・フィル、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、ザルツブルク音楽祭などで活躍するヴァイオリニスト、ヴィトマンが共演。哀愁とロマン漂う傑作を力強く流麗に奏でる。

3/12《定期》 ヴァイグレがR. シュトラウス《英雄の生涯》をドラマティックに描く。彼はこの作品について「一つの人生を描写する偉大な作品。人生と向き合う作品なので、とてもエキサイティングなワクワクするものになるのは間違いないと思う」と熱く語っている。また、前半に演奏するヒンデミット《4つの気質》は、ヴァイグレがこだわりを持って組み込んだ曲。「ピアニストを選ぶし、オーケストラにも卓越性が求められる。ずっとやりたいていた曲で、今回読響と初めて演奏できるのが嬉しい」と意気込む。ソロは、完璧なテクニックと深みのある表現を持つロシアの大器ゲニューシャスが務める。

3/14、15《土日マチネー》 2010年ショパン国際ピアノコンクール第2位になり、その後も飛躍的な活躍で人気のゲニューシャスが、ベートーヴェン《皇帝》で共演する。屈指の人気ピアノ協奏曲を、あふれるパッションで雄渾壮大に繰り広げる。後半は《定期》と同じく《英雄の生涯》。これまでにオペラも含め多くのR. シュトラウス作品を指揮してきたヴァイグレが、多彩な表現力で作品の神髄に迫る。

(文責:事務局)

スイスの巨匠ヴェンツァーゴが読響初登場、ブルックナーの神髄に迫る



4/8 水 第597回 定期演奏会
サントリーホール 19:00

指揮＝**マリオ・ヴェンツァーゴ**
ヴァイオリン＝**シモーネ・ラムスマ**
パーパー：ヴァイオリン協奏曲
ブルックナー：交響曲 第3番〈ワグナー〉(第3稿)

“炎のマエストロ”が魂を込めるベートーヴェン〈英雄〉



4/25 土 第226回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

4/26 日 第226回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

指揮＝**小林研一郎**(特別客演指揮者)
ヴァイオリン＝**福田廉之介**
サン＝サーンス：ヴァイオリン協奏曲 第3番
ベートーヴェン：交響曲 第3番〈英雄〉

祝80歳！ 小林研一郎が名手たちと奏でる三重協奏曲



4/28 火 第631回 名曲シリーズ
サントリーホール 19:00

4/29 水・祝 第119回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール 14:00

指揮＝**小林研一郎**(特別客演指揮者)
ヴァイオリン＝**成田達輝**
チェロ＝**遠藤真理**(読響ソロ・チェロ)
ピアノ＝**小林亜矢乃**
ベートーヴェン：〈エグモント〉序曲
ベートーヴェン：三重協奏曲
ベートーヴェン：交響曲 第7番

新時代の旗手・鈴木優人が振るベリオ&シューベルト



5/13 水 第598回 定期演奏会
サントリーホール 19:00

指揮＝**鈴木優人**(指揮者/クリエイティブ・パートナー)
トランペット＝**マティアス・ヘフス**
シューベルト：交響曲 第4番〈悲劇的〉
ペーメ：トランペット協奏曲
ベリオ：レンダリング～シューベルトの未完の断片を用いて～

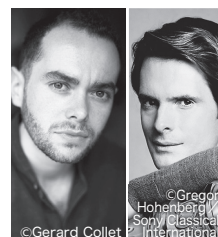
イギリスの新鋭グラスバークが描くシベリウスの雄大な世界



5/19 火 第632回 名曲シリーズ
サントリーホール 19:00

指揮＝**ベン・グラスバーク**
ピアノ＝**ペーター・レーゼル**
フンパーディンク：歌劇〈ヘンゼルとグレーテル〉序曲
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第1番
シベリウス：交響曲 第2番

“ハープの貴公子”メストレが共演！ 優雅なひとときへ誘う週末の午後



5/23 土 第227回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

5/24 日 第227回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14:00

指揮＝**ベン・グラスバーク**
ハープ＝**グザヴィエ・ドゥ・メストレ**
モーツァルト：歌劇〈ドン・ジョヴァンニ〉序曲
ボワエルデュ：ハープ協奏曲
モーツァルト：交響曲 第31番〈パリ〉
ラヴェル：ボレロ

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時～18時・年中無休) <https://yomikyoku.or.jp/>

■東京芸術劇場シアターオペラ vol.13

2/22 14:00
土 東京芸術劇場コンサートホール

指揮=ヘンリック・シェーファー 演出・振付=矢内原美邦

出演=エヴァ・メイ、醍醐園佳、森山京子、宮里直樹、三浦克次、古橋郷平、
三戸大久、高橋洋介、ジョン・ハオ、三浦大喜、杉尾真吾、井手壮志朗 ほか
合唱=新国立劇場合唱団

ヴェルディ：歌劇《椿姫》全幕（日本語字幕付原語上演）

[料金] SS¥12,000 S¥10,000 A¥8,000 B¥6,000 C¥4,000
D¥3,000 E¥1,500 高校生以下 ¥1,000

[お問い合わせ] 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296（10～19時/休館日を除く）

■みらかグループ presents 究極の協奏曲コンサート

3/18 18:45 水 愛知県芸術劇場【Bプロ】 3/20 14:00 金・祝 石川県立音楽堂【Aプロ】

3/21 15:00 土 サントミュージゼ（上田市）【Aプロ】 3/23 19:00 月 オーチャードホール【Aプロ】

3/24 19:00 火 オーチャードホール【Bプロ】 3/26 19:00 木 広島文化学園 HBG ホール【Aプロ】

3/28 14:00 土 ザ・シンフォニーホール（大阪市）【Aプロ】 3/29 14:00 日 ザ・シンフォニーホール（大阪市）【Sプロ】

4/2 19:00 木 栃木県総合文化センター【Bプロ】

指揮=ニール・トムソン ヴァイオリン=辻 彩奈【Bプロ】 チェロ=宮田 大【A、Sプロ】
ピアノ=辻井伸行【全公演】

チャイコフスキー：ピアノ協奏曲 第1番 シベリウス：ヴァイオリン協奏曲

ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 ほか

※曲目、料金等の詳細は、オフィシャルサイト (<https://avex.jp/classics/kyukyoku2020/>) を
ご覧ください。

■芸劇&読響 0才から聴こう!! 4才から聴こう!! 春休みオーケストラコンサート

3/31 11:30（0才から入場可）/13:30（4才から入場可）
火 東京芸術劇場コンサートホール

指揮=沖澤のどか サクソフォン=金野龍篤 ナビゲーター=小林よしひさ

ドヴォルザーク：スラヴ舞曲 第1番 三木たかし：アンパンマンのマーチ（11:30開演のみ）

チャイコフスキー：バレエ音楽《くるみ割り人形》から“葦笛の踊り”（13:30開演のみ）ほか

[料金] S¥3,500 A¥2,500 こども（3才以上小学生まで）¥1,000

※11:30開演…0才から入場できます。

2才児まで保護者のひざ上の場合は無料（ただし、保護者1名につきこども1名まで）。

※13:30開演…4才から入場できます（3才以下入場不可）。全席有料となります。

[お問い合わせ] 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296（10～19時/休館日を除く）

“歴史を刻む”

創立 50 周年記念モデルの第一弾
純 A 級プリメインのフラグシップ・モデル



新製品

純A級 50W/ch(8Ω)
インテグレート・ステレオアンプ **E-800**
希望小売価格 980,000円(税別)

アキュフェーズ株式会社

※製品の貸し出し試聴をご希望の方は、アキュフェーズ製品取扱店にご相談ください。

※アキュフェーズ製品の保証期間は5年間です。但し、CDプレーヤーなどは3年間、MCカートリッジは1年間です。

●カタログ請求は 〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10 アキュフェーズ(株) 宣伝課D係
TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959 <http://www.accuphase.co.jp/>

2020-21シーズンの聴きどころ④

年6回の《横浜みなとみらいホリデー名曲シリーズ》と年3回の《大阪定期演奏会》。常任指揮者セバスティアン・ヴァイグレや桂冠指揮者シルヴァン・カンブルランほか、国際的に注目を集める旬の指揮者たちと人気ソリスト陣が名を連ねる。名曲を中心とした聴きごたえのあるプログラムがそろった。〈飯尾洋一 音楽ライター〉

横浜みなとみらいホリデー名曲シリーズ Yokohama Minato Mirai Holiday Popular Series



小林研一郎
©Marcoborggreve



成田達輝
©Chromuchida



小林亜矢乃
©Yujihon



遠藤真理
©Silvian

新シーズンの《横浜みなとみらいホリデー名曲シリーズ》は、横浜みなとみらいホールが改修工事により2021年1月から約1年10か月間の休館に入るため、全6回の開催となる。

まず4月は特別客演指揮者の**小林研一郎**が登場し、オール・ベートーヴェン・プログラムで楽聖の生誕250年を祝う。プログラムは〈エグモント〉序曲、三重協奏曲、交響曲第7番。三重協奏曲では、ヴァイオリンの**成田達輝**、ピアノの**小林亜矢乃**、読響ソロ・チェロの**遠藤真理**がソリストを務める。3人のソリストを必要とするだけに演奏機会の限られた作品であり、今回は貴重な機会となる。交響曲第7番では「炎のマエストロ」が読響とともに燃え上がる。80歳を迎えるマエストロだが、炎の勢いはいまだ衰えることがない。

6月は桂冠指揮者**シルヴァン・カンブルラン**が待望の帰還を果たす。プログラムはメシアンの〈キリストの昇天〉、コルンゴルトのヴァイオリン協奏曲、ムソルグスキー（ラヴェル編）の〈展覧会の絵〉の3曲。カラフルかつ精緻なオーケストラの響きを堪能させてくれることだろう。コルンゴルトの協奏曲では俊英、**三浦文彰**が独奏を務め、近年人気が高まりつつある同曲の魅力を存分に伝える。

8月は1988年ウズベキスタン生まれの**アジス・ショハキモフ**が客演する。2010年に早くもマーラー国際指揮者コンクール第2位に入賞して一躍注目を集め、以来国際的に活躍している注目株だ。プログラムの冒頭には20世紀トルコの

作曲家フェリト・テュジュンの〈トルコ風奇想曲〉という珍しい作品が置かれた。民族色豊かなトルコ版〈春の祭典〉といった趣。モーツァルトのクラリネット協奏曲では、ドイツの気鋭、**セバスティアン・マンツ**がソロを務める。モーツァルト晩年の透徹した詩情を味わいたい。メイン・プログラムは**チャイコフスキー**の交響曲第6番〈悲愴〉。ショハキモフの棒のもと、スケールの大きな音楽がくりひろげられるのではないかな。

10月はアジアの新星、**カーチュン・ウォン**が招かれる。1986年シンガポール生まれ。名指揮者**クルト・マズア**の薫陶を受け、2016年のマーラー国際指揮者コンクールの優勝で脚光を浴び、2018年にはニュルンベルク交響楽団首席指揮者に就任している。**仲道郁代**との共演によるベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番〈皇帝〉と、ドヴォルザークの交響曲第8番という名曲プログラムで直球勝負を挑む。カーチュン・ウォンは以前から日本の楽団への客演も多く、日本語も達人だ。全身から音楽が伝わってくるような指揮姿も目を奪う。

11月はアルゼンチン出身の**アレホ・ペレス**が指揮台に上る。ペレスは2016年のザルツブルク音楽祭のグノー〈ファウスト〉でウィーン・フィルと初共演を果たして注目を浴びた。プログラムはベートーヴェンの序曲〈レオノーレ〉第3番、ロドリゴの〈ある貴紳のための幻想曲〉、そしてベルリオールの〈幻想交響曲〉。〈アランフェス〉と双璧をなすロドリゴの傑作協奏曲を**村治佳織**のギターで聴くことができる。

12月は常任指揮者の**セバスティアン・ヴァイグレ**の出番だ。年末の風物詩、ベートーヴェンの〈第九〉が演奏される。毎年くりかえし演奏される〈第九〉だが、ベートーヴェン・イヤーの掉尾を飾る〈第九〉は、特別な感銘をもたらしてくれるにちがいない。ソプラノの**森谷真理**、メゾ・ソプラノの**ターニャ・アリアーネ・バウムガルツナー**、バリトンの**大沼徹**らの独唱陣に**新国立劇場合唱団**が加わる。最高水準の合唱団で聴く〈第九〉は格別だ。



セバスティアン・マンツ
©Marcoborggreve



カーチュン・ウォン
©Chao Suzuki



仲道郁代
©Yoshida Sato



アレホ・ペレス
©Kerim Karami



村治佳織
©Yasuo Yamamoto



セバスティアン・ヴァイグレ
©Sato



森谷真理
©Sato



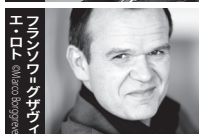
ターニャ・アリアーネ・バウムガルツナー
©Sato



大沼徹
©Sato

大阪定期演奏会

Subscription Concert in Osaka Series



《大阪定期演奏会》はフェスティバルホールで3公演が開催される。

6月、桂冠指揮者シルヴァン・カンブルランが帰ってくる。9年間にわたる常任指揮者在任中に次々と意欲的なレパートリーを披露してくれたカンブルランだが、今回のプログラムも大いに期待できそう。得意とするメシアンの初期の代表作〈クリストの昇天〉、若き名手、三浦文彰が独奏を務めるコルンゴルトのヴァイオリン協奏曲、ムソルグスキーのピアノ曲をラヴェルが華麗な管弦楽曲に仕立てた組曲〈展覧会の絵〉。カンブルランが読響から精緻で色彩豊かなサウンドを引き出してくれることだろう。絢爛たる響きの芸術を心ゆくまで味わいたい。

10月は鬼才フランソワ＝グザヴィエ・ロトが客演する。躍動感とユーモアにあふれたハイドンの交響曲第59番〈火事〉、日本を代表する名ピアニスト、河村尚子を独奏に迎えたラフマニノフの〈パガニーニの主題による狂詩曲〉、そしてストラヴィンスキーの〈春の祭典〉を指揮する。〈春の祭典〉ほどロトに指揮してほしい曲はない。自ら設立したピリオド楽器オーケストラ「レ・シエクル」では、徹底したこだわりから同曲の初演時の姿をよみがえらせたロトだが、さて、読響ではどんなアプローチで臨むのだろうか。

12月はやはりベートーヴェンの〈第九〉を聴きたいもの。年末の風物詩となっている〈第九〉だが、ベートーヴェン生誕250年を迎えて、改めてその作品の偉大さに向き合いたい。記念すべき年の〈第九〉となれば、指揮は常任指揮者セバスティアン・ヴァイグレをおいてほかにない。ドイツ・オーストリア系のレパートリーを得意とするヴァイグレが、ベ

ートーヴェンの神髄に迫る。独唱陣にはソプラノの森谷真理、メゾ・ソプラノのターニャ＝アリアーネ・パウムガルトナー、バリトンの大沼徹らを迎え、“歓喜の歌”では新国立劇場合唱団が活躍する。合唱のクオリティの高さは折り紙付きだ。

ロジェストヴェンスキー&読響のCDが『レコード芸術』誌で特選盤に

2018年に惜しまれつつ世を去った巨匠ロジェストヴェンスキー指揮、読響の新譜CD下記3タイトルすべてが、『レコード芸術』誌1月号「新譜月評」で特選盤に選ばれました。

- ブルックナー：交響曲第5番（シャルク版） 品番：ALT411
- ショスタコーヴィチ：交響曲第10番 品番：ALT412
- チャイコフスキー：バレエ〈白鳥の湖〉〈眠りの森の美女〉〈くるみ割り人形〉から抜粋 品番：ALT413/4

「ロジェストヴェンスキーならではの強烈な世界が圧倒的」、「底知れない歴史の闇を聴き手に突き付けてくる」などと、選者の金子建志氏、満津岡信育氏らから高い評価をいただきました。

このCDは2016年9月、2017年5月の読響公演をライブ収録したもので、昨年11月2日にAltus Musicレーベルから発売されました。読響の主催公演の演奏会場でもお買い求めいただけます。ぜひ、お聴きください。

日本交響楽振興財団は、主要オーケストラと各地でコンサートを開催しています。

2月5日(水)の福井公演には、読売日本交響楽団が出演します。



山口県下松市公演（読売日本交響楽団、2018年9月）

公益財団法人 日本交響楽振興財団

Tel. 03-3253-2032 URL <http://www.symphony.or.jp>